

『－ 当院における内視鏡外科チームへの関わり－』

近畿大学医学部附属病院 臨床工学室

古田 朋之

【はじめに】近年、内視鏡外科手術は年々増加傾向にあり、また技術の進歩に伴い周辺医療機器も高度複雑化してきている。このような背景の中で、チーム医療を形成する構成職種との役割と意識が非常に重要になっていっている。今回、我々の施設での取り組みを報告する。

【変遷および運用】業務開始当初より機器の使用前・使用後点検、定期点検の実施、その後、臨床的観点から、使用中トラブル防止のために他職種への研修開催を定期的に行う。財務的観点から、予防保守や使用前・後点検による故障状態の深刻化防止による修理コスト削減などを実施した。現在は、手術部会議などで全体共有し、修理実績の見える化を行っている。

【効果および問題点】結果として、手術開始時における機器の不具合によるトラブルは減少した。しかし、人的要因によるトラブルは一定の割合で発生している。内視鏡外科手術におけるチーム医療は、術前、術中、術後での各職種が連携と責任を持ってバトンを渡す必要性があり、当院では仕組みはあるが、連携と各職種での意識の醸成が課題としてある。

【結語】臨床工学技士の立場から、他職種へのフィードバックと知識・技術の指導と職種間連携での各職種の役割を明示し、ヒト・モノの手術室環境整備を行い、チーム医療による安全と質の向上に寄与できればと考える。